

展示・学習等WGにおいて整理すべき事項（案）

資料6

＜施設整備に関わる機能横断的な考え方（論点に係る議論の前提として整理）＞

※保存・利用支援等WGと共通。

- 保存、修復、デジタル化等に係る業務・施設など、国立公文書館の「裏側」を利用者に見せることのできる機能を備えた施設とする。（←第1回展示・学習等WG）

【施設面における必要な対応（例）】見学者用の動線の確保。

- デジタル化を始めとする将来的な変化、新たなニーズに柔軟に対応できる施設とする。（←基本構想における「新たな国立公文書館像の方向性」）

【施設面における必要な対応（例）】・固定的な壁による仕切りは最小限に留め、可動式の壁やパーティションを活用したニーズに応じた柔軟な利用ができるようにする。

・例えば閲覧室について、国立公文書館に来館することによるメリットを感じられるようなサービス提供（アーキビストによる相談対応等）を想定した空間とする。

- 我が国全体の歴史公文書等の保存・利用の取組推進の拠点としての役割の強化を念頭に、そのために必要な施設を整備する。（←基本構想における「新たな国立公文書館像の方向性」）

【施設面における必要な対応（例）】・保存・修復の技術等に係る研究施設などの整備。

・災害等発生時における復旧・修復支援に備えた施設整備。

<参考>

【裏側を利用者に見せる取組の例】

○九州国立博物館のバックヤードツアー

同館では、日曜日に先着順（定員30名）のバックヤードツアー（所要50分程度、無料）を受け入れている。収蔵庫の壁体の一部に閉口部を設け、見学通路から内部を覗き見することができるようにしている。



見学通路から収蔵庫内を見られる閉口部

【可変性を備えた施設に係る事例、参考意見】

○フランス（ピエールフィット館）の修復室

作業と資料の性質に応じて、液体を取り扱う工程用の区画と取り扱わない区画、大判資料の作業を行う区画、さらに吊り下げによる作業が必要な大判資料用に、2フロア分を吹き抜けにして高さを確保した区画等に区分されている。液体を取り扱う環境は、専用機器を設置する関係から固定されているが、それ以外の区画は資機材の移動が可能であり、資料や作業に応じた柔軟な対応が可能な構成とされている。



修復室のうち液体を取り扱わない環境

○海外公文書館専門家の招聘（平成27年度実施）ヒアリングにおける意見

閲覧室の整備に向けた示唆として、以下のような指摘があった。

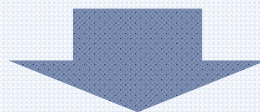
・近年、資料のデジタル化が進み、インターネットで公開されることが、インターネットから資料にアクセスする利用者が拡大している。そのため、閲覧室に求められる役割が変化しており、単なる閲覧の場から、調査研究のためのアーキビストによるコンサルティングやディスカッションの場に変わっていくのではないかと。

・閲覧室は公文書館において必須の機能であるが、来館者のニーズは流動的なため、来館者の動向に合わせて容易に改変できるような可動性のある空間づくりが必要。

出典：国立公文書館の機能・施設の在り方等に関する調査報告書（平成28年3月内閣府）

整理事項①. 展示・学習、情報交流の各機能に係る施設に備えるべき性能、要件

- 国立公文書館が求められる機能を果たすためには、どのような用途に対応した、どのような要件を備えた施設を整備すべきか。



国立公文書館が提示している各機能に係る「必要な施設・設備」（p 4～p 6）をたたき台として議論。

【展示機能】

※第1回展示・学習等WG資料5（国立公文書館資料）より抜粋

必要な施設・設備	用途	面積	要件
憲法展示室 ・原本を常時展示可能な展示ケース ・観覧に十分なスペースの確保	・日本国憲法など象徴的な資料を展示	100m ²	・エントランスから、来館者が入室しやすく、かつ、日照や外気の影響を受けにくい、地下1階程度を想定 ・部屋全体を定温・定湿度管理。 ・資料・業務に影響を与えない室内照明(LED, 調光機能を含む)・室内空調(空気清浄機能を含む)。 ・IPM(総合的有害生物管理)への対応、外部要因による資料への悪影響を遮断。 ・不審者等の侵入を防ぐ堅固なセキュリティ。 ・子どもや車いす利用者等に利用しやすいよう、ユニバーサルデザインに配慮。 ・小中学生や海外からの来館者にも配慮した展示を工夫。
常設展示室 ・我が国の成り立ちや国家としての意思決定の過程をたどる資料を常設展示	・所蔵資料のほか、他機関所蔵資料を借用又は複製により展示	2200m ²	
企画展示室 ・写真、音声、画像、モノなど多様な形態の資料を用いた展示 ・他機関所蔵資料を展示することが可能な国際的水準を満たした展示設備 ・展示内容に応じた可変的スペース	・特別展、企画展を開催		
展示準備室 ・展示に必要な機材を収納	・展示業務用バックヤードスペース	250m ²	

※ 主に施設に備えるべき性能、要件について議論を行うためのたたき台として示すもの（以下、p6まで同様）。必要面積も含めた施設・設備の案については、ワーキンググループにおける議論を踏まえて改めて提示予定。

【学習機能】

※第1回展示・学習等WG資料5（国立公文書館資料）より抜粋

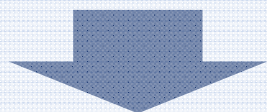
必要な施設・設備	用途	面積	要件
見学・体験活動			
施設内見学スペース、修復等体験室等	<ul style="list-style-type: none"> 施設内の見学 修復・保存・利用等に関する業務を体験 	150㎡	<ul style="list-style-type: none"> ＜見学スペース＞ 作業実況用カメラ、モニター等 ＜修復等体験室＞ 水周り(水道・排水)の設置、作業台、乾燥場所
学習・研修			
学習・研修室	<ul style="list-style-type: none"> 研修会の実施 講演会等の開催 学習プログラム等の実施 	1,000㎡	<ul style="list-style-type: none"> 講演会300名程度収容可能(シアター式) 研修会200名程度収容可能(スクール式) 研修・学習 グループミーティングルーム <ul style="list-style-type: none"> * 可動式パーテーションによる間仕切り 利用者の多様な学習形態に柔軟に対応できる フレキシブルな空間が望ましい 可動式の机・椅子 パソコン、タブレット等情報通信環境の整備 プロジェクター、大型スクリーン、音響設備等 ステージ 電子黒板、ホワイトボード スタッフルーム、可動式什器の収納庫

【情報交流機能】 ※第2回展示・学習等WG資料1（国立公文書館資料）より抜粋

必要な施設・設備	用途	面積	要件
共通機能			
<p>エントランス等 国立施設としてふさわしい来館者へインパクトを与えるようなエントランス</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・来客用エントランス ・総合案内・受付 ・外国語対応 	500m ²	<ul style="list-style-type: none"> ・エントランスからのスムーズな動線とユニバーサルデザイン等に配慮した総合案内、受付。 ・来館者の利便性に配慮しつつ、不審者等の侵入を防ぐセキュリティ機能を整備。
<p>共通利用施設 来館者が快適に過ごすことが可能な施設・設備</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・レストラン・カフェ ・休憩室 ・ショップ(グッズ販売) ・館PRスペース ・交流広場 等 	800m ²	<ul style="list-style-type: none"> ・資料・業務への影響の観点から、安全衛生の確保、施設・設備の配置等に十分留意。 ・レストラン・カフェ・ショップは、全ての施設来館者が立ち寄れる場所としつつ、単独の目的での来館も想定し、外部からも入店しやすいよう、配置・動線に配慮。物品販売用のバックヤードも確保。 ・友の会会員等、来館者が集い、交流できるスペースを用意。
その他機能			
<p>来館者用スペース 快適・安全に館内に滞在するための施設・設備の確保</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・展示観覧者・閲覧室利用者用ロッカールーム ・洗面所 ・休憩室 等 	550m ²	<ul style="list-style-type: none"> ・ロッカールーム、洗面所、休憩室等は多数の来館者にも対応可能な十分な広さ、数量を確保。

整理事項②. 各機能の施設内における配置等

展示・学習等活動の展開イメージを踏まえ、各機能の施設内における配置（階数など）、機能間のつながり等について、どのような点に留意すべきか。



（仮案）

- 文書（受入れから利用まで）や人（利用者、見学者、職員）やの流れを想定し、機能の異なる動線が交錯しないような空間配置とする。
- 施設内見学ツアーの実施を想定し、見学者用の動線を確保する。
- 入口→案内カウンター→展示室、学習室という流れで利用者がスムーズに到達できるよう、できるだけ移動距離、高低差の少ないシンプルな動線を確保する。